

現 場 説 明 書	
工事名称	千葉県立館山総合高等学校水産校舎ヨット艇庫シャッター改修工事
説 明 事 項	1. 設計図書等（本現場説明書や工事特記仕様書並びに図面等の書類をいう。）に十分目を通し、受注者が履行すべき事項を把握して入札すること。 なお、設計図書等の記載事項に、疑義がある場合は必ず質問すること。 2. 千葉県建設工事適正化指導要綱に基づき、本工事の請負契約の適正化等に努めること。 3. 本工事契約後に監督員等の承諾・確認等受けるべき工事関連書類は、営繕課 HP 内「県発注営繕工事関連提出書類一覧」を確認して作成すること。 4. 受注者は、建設業退職金共済制度に加入し、「建設業退職金共済証紙購入状況の確認について（千葉県）」を遵守すること。 https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfudou/jigyousha/kensetsu/documents/kentaikyomanual.pdf 5. 受注者は、本工事が対象となる請負業者賠償責任保険等の保険に加入し、保険証書の写しを提出すること。なお、受注者が自社事業全体を対象として年間で一括加入している場合は、その証書の写しと付保証明書の原本を提出すること。 6. 法令等による申請又は提出書類は一覧表を作成し、遅滞なく関係機関に提出すること。 作成した一覧表は、1 部を監督員に提出し双方で管理する。 7. 工事箇所の近隣住民並びに近隣施設とのトラブルが発生しないよう配慮すること。 万一、発生した場合は受注者側で処理すること。 8. 本工事の工事対象建築物は工事と併行して執務を行うため、施設関係者に対して安全を十分配慮し、業務に支障が無いよう協力すること。 9. 既存工作物及び埋設物には十分注意し、破損した場合は、受注者の責任において速やかに復旧すること。 10. 受注者からの協議により、やむを得ず「手すり先行工法に関するガイドライン」による設置及び手すり先行専用足場型と同等の機能を有する足場の設置が不可能となった場合は、設計変更の対象とする。 11. 本工事を施工するにあたり、使用する建設機械においては、低騒音建設機械及び排出ガス対策型建設機械を使用することとし、併せて低振動型建設機械を使用するよう努めること。 12. 本工事は、受注者による営繕工事の実施状況を費用の面から把握することにより、発注者における工事費積算のより一層の適正化を図ることを目的とした「共通費実態調査」の対象工事である。 なお、調査票は、以下に掲載している。 https://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_fr2_000015.html 13. 本工事は、千葉県営繕工事週休 2 日促進工事実施要領（令和 8 年 1 月 20 日改定）に基づき、発注者が週休 2 日に取り組むことを指定する通期の週休 2 日促進工事（発注者指定方式）である。 14. 受注者は、「公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部を改正する法律」（令和元年 6 月 14 日法律第 35 号）に基づき、公共工事等に従事する者の業務上の負傷等に対する補償に必要な金額を担保するための保険（法定外の労災保険）へ加入すること。 15. 「墜落制止用器具の規格」（平成 31 年 1 月 25 日厚生労働省告示第 11 号）による墜落制止用器

説 明 事 項	具（フルハーネス型、胴ベルト型及びランヤード等）を使用すること。 16. 本工事は、千葉県建設キャリアアップシステム活用工事の対象工事とする。 (1) 受注者は、工事の締結後、工事着手前にCCUS活用の希望の有無について、監督職員と協議すること。 (2) 工事の実施にあたっては、「千葉県建設キャリアアップシステム活用工事試行要領」に基づき行うこと。 17. 本工事は、遠隔臨場の実施の可否について、契約後に受注者からの希望に基づき受発注者協議により決定する工事である。実施に当たっては「千葉県県土整備部営繕工事の建設現場における遠隔臨場に関する試行要領」に基づくものとする。 18. 本工事は、受注者が希望する場合、受発注者間の協議に基づき、情報共有システムを活用することができる工事である。実施に当たっては「千葉県営繕工事情報共有システム実施要領」に基づくものとする。 19. 中東情勢の変化による影響により、工事契約後の想定外の資材高騰・納期遅延が生じた場合は、スライド条項（建設工事請負契約書第 26 条）に基づく請負代金額の変更や、受注者の責によらない資材納期遅延に伴う工期の延長について、発注機関と協議すること。 20. 本工事は、ナフサを由来とする建設資材について、中東情勢の変化等により供給の偏りや流通の目詰まりにより、入手が困難となっている資材（以下、「調達検討資材」）について、調達変更により必要となる経費（以下、「別途調達経費」）について、設計変更により計上をする工事である。 (1) 調達検討資材は塗料（さび止め塗料、塗料用シンナー等を含む）、防水材（シーリングを含む）、断熱材（押出法ポリスチレンフォーム等）、硬質ポリ塩化ビニル管、構造用合板などの資材を想定している。なお、これにより難しい場合は、監督職員と協議するものとする。 (2) 受注者は、次の①、②のとおり、調達検討資材について別途調達経費が必要となる場合には、事前に監督職員に「調達検討資材に関する協議書（様式 1）」を提出し、協議するものとする。ただし、迅速な対応が求められる場合には、口頭、ファクシミリ、電子メールなどで協議することも可能とするが、事後、遅滞なく書面により協議するものとする。 ① 調達検討資材の代替資材を調達した場合 ② 設計図書どおりの調達検討資材を調達するために、流通状況を踏まえた調達経費が別途必要となる場合（受注者が流通経路を見直して調達した場合も含む） (3) 設計変更に際し、受注者は、「調達検討資材に関する実施報告書（様式 2）」、調達時期、購入数量、購入単価が記載された実際の取引伝票、見積書、請求書等（以下「証明書類」という）の資料を監督職員に提出する。 (4) 妥当性が確認された別途調達経費について設計変更の対象とする。受注者の責めに帰すべき事由による増加費用については、設計変更の対象としない。 (5) 本運用による設計変更内容は、工事請負契約書第 26 条（スライド条項）の対象外とする。 (6) 疑義が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。 21. 仮設の詳細位置については、施設管理者及び監督職員と協議の上、決定すること。 22. 学校行事に配慮すること。 質問及び回答 本業務に関して質問がある場合は、千葉県立館山総合高等学校長宛てに電子メールにより提出すること。 詳細は指名通知を参照すること。なお、質問がない場合は提出する必要はない。
-------------------------------------	--